

WIN PARTNERS
WIN A BETTER QUALITY OF LIFE

PARTNERS Report

ウイン・パートナーズ 株式会社

第2期第2四半期 株主通信 Vol.4

2014年4月1日～2014年9月30日

ごあいさつ

株主の皆様には、平素より格別のご支援を賜りまして厚く御礼申し上げます。

医療機器販売を行う(株)ウイン・インターナショナルとテスコ(株)を一体運営するため発足した当社は、2014年9月16日をもちまして東証第一部銘柄に指定されました。5月の第二部上場から4ヶ月という短期間で第一部に昇格できたのもひとえに株主の皆様の温かいご支援の賜物と心より感謝申し上げます。

2期目となる2015年3月期上期の業績は、2年に1度の保険償還価格の改定により、主力製品の販売価格が低下したものの、痛みや身体への負担が少ない低侵襲治療に対する需要が拡大し、増収増益を達成しました。通期の業績予想につきましては、販売数量の拡大や仕入コスト低減策の強化により、売上高は510億円(前期比2.4%増)、経常利益は25億78百万円(同3.2%増)を見込んでおります。なお、配当予想につきましては、前期の32円から3円増配の35円を計画しております。

国民医療費は今や39兆円を突破し、健康上の問題がなく日常生活を送ることができる「健康寿命」を伸ばしていくことが、私たちに求められております。元気で豊かな生活を送ることができる社会の実現に貢献するため、これからも様々な製品やソリューションを医療現場に提供し、企業価値の向上に邁進してまいりますので、今後ともご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



代表取締役社長 秋沢英海

おかげさまで、 東京証券取引所市場第一部銘柄に指定されました。

連結財務ハイライト

(2015年3月期 第2四半期連結累計期間)

	百万円	前年同期比
売上高	23,590	+6.1%
営業利益	1,093	+4.0%
経常利益	1,101	+4.0%
四半期純利益	706	▲30.8%
1株当たり四半期純利益(円)	49.20	▲30.8%

ウイン・パートナーズグループ



Q-1 当上期の事業環境と経営成績についてご解説ください。

医療機器販売業界を取り巻く市場環境は、4月に実施された診療報酬改定や消費税率の引き上げなどに伴い、厳しい状況で推移しました。当社グループも診療報酬改定に伴う医療材料の保険償還価格の引き下げによって、連結売上高ベースで約6%のマイナスの影響を受けましたが、仕入先や納入先との価格交渉に注力したほか、成長分野商品の販売拡大などに努めた結果、当上期の連結売上高は前年同期比6.1%の増収、営業利益と経常利益は前年同期比4%の増益を確保することができました。

※ TAVI：大動脈弁狭窄症の新たな低侵襲治療法で、カテーテルを通じて心臓に人工の弁を埋め込む。2013年10月に保険適用となった。

保することができました。四半期純利益が大きく減少しているのは、前年同期に経営統合に伴う負のれんが発生したことの影響によるものです。

製品分野別の動向を見ますと、当上期に特に好調だったのは、大型医療機器やEPアブレーション、ステントグラフト、「TAVI[※]」向けの生体弁などです。一方で主力製品である薬剤溶出型ステント(DES)などの虚血性心疾患関連(PCI)は価格改定の影響を大きく受け、販売数量は伸びたものの売上高は減少しました。

Q-2 当上期の主な取り組みや成果についてご紹介ください。

当上期に実施した新たな取り組みの中で手応えを感じられたのが、主力製品のひとつであるPTCAバルーンカテーテルを対象に実施した一括買い取り戦略です。従来はメーカーから製品を預かり、販売できた分だけの代金を支払うという取引形態だったのですが、これを当社が在庫リスクを負って一括で買い取ることで、より安く仕入れられるようになりました。

このほか4月には、事業子会社である(株)ウイン・インターナショナルとテスコ(株)がそれぞれ福島県に持っていた営業所を統合しました。9月には宮城県の特スコの本社兼倉庫を移転増強し、また西日本においては広島県と熊本県に小規模営業拠点を開設し、新規開拓を強化しました。

Q-3 当下期の事業環境の見通しと業績予想についてお聞かせください。

事業環境に特に大きな変化はないと考えており、通期の連結業績については期初予想に変更はなく、売上高510億円(前期比2.4%増)、営業利益25億73百万円(同3.8%増)、経常利益25億78百万円(同3.2%増)、当期純利益16億59百万円(同9.9%減)と予想しています。当社グループは例年、上期よりも下期に収益が集中する傾向にありますので、上期からの取り組みを継続していくことで、期初計画を達成できると見込んでおります。

当下期の主な戦略としては、引き続き成長分野であるペースメーカーやEPアブレーションなどの心臓律動管理関連(CRS)やステントグラフトなどの心臓血管外科関連(CVS)などの需要喚起に努めるほか、売上高構成比の高い虚血性心疾患関連(PCI)の効率化に注力していきます。具体的には、当上期の大きな成果である一括買い取りについて、当下期は対象品目をさらに拡大

し、利益率のさらなる向上につなげたいと考えています。さらに下期からは新たに函館市にも進出し、顧客開拓を推進していきます。

ウイン・パートナーズ 2015年3月期業績予想(連結)

	百万円	前期比
売上高	51,000	+2.4%
営業利益	2,573	+3.8%
経常利益	2,578	+3.2%
当期純利益	1,659	▲9.9%
1株当たり配当金(円)	35.00	+9.3%

※予想値は2014年5月14日の公表値

Q-4 中長期的な成長戦略についてお聞かせください。

5人に1人以上が65歳以上の高齢者という「超高齢社会」に突入した日本で、医療に対する需要は増加の一途をたどることは間違いありません。一方で、

膨らむ医療費を抑制していくことも国家としての喫緊の課題となっており、我々医療機器販売業界に対しても、コストダウンの要求はますます強まるものと予

想されます。

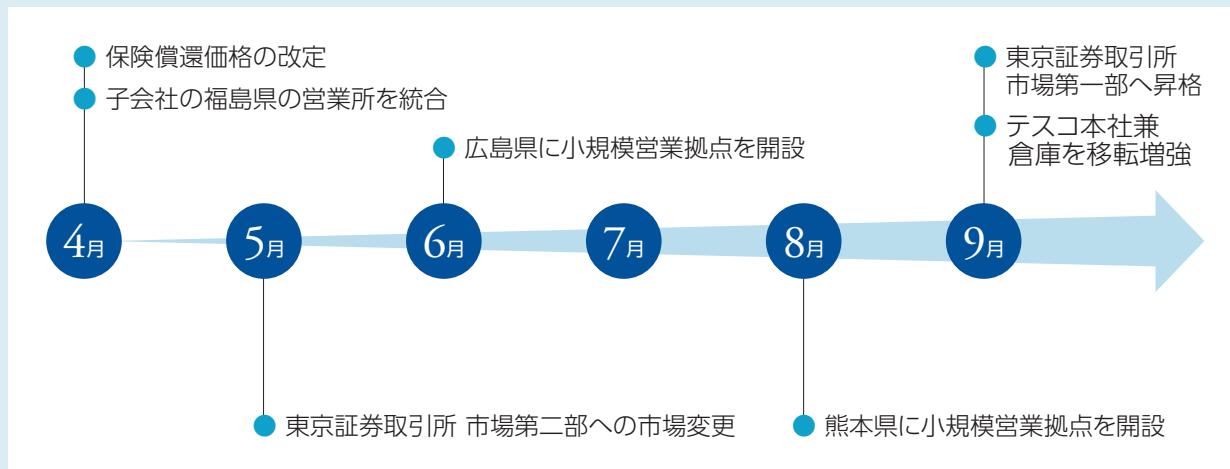
このような環境の中で当社グループが、さらに成長を遂げていくためには、「我々にしかできないこと」をやっていくしかありません。当社グループは身体への負担が少ない「低侵襲医療」のパイオニアとして、国内外の優れた医療機器メーカー、有力な医療機関やドクターとのネットワークを築いてきました。こうしたネットワークをさらに活用して、心疾患関連製品で新しい治療法の普及促進や新製品、高付加価値製品の拡大に努めるほか、低侵襲医療のターゲットを下肢や腹部など、心臓以外にも広げていく考えです。

営業エリアのさらなる拡大も大きなテーマです。現在当社グループは首都圏と東北エリアを重点的にカバーする体制をとっていますが、今後は中部、関西地

方にも地盤を築いていく方針です。医療機器販売業界では今後、中小零細企業の経営難、後継者不足が深刻化すると考えられます。こうした企業の中から、我々の戦略に合致する優秀な企業を厳選してグループに迎え入れたいと考えています。

当社グループは常に時代の半歩先を行き、新たな技術や製品情報をいち早くアップデートすることで事業規模を拡大し、業界でも屈指の高い利益率を誇る事業基盤を構築してきました。今後もこうした姿勢を大切にしつつ、治療領域や営業エリアを拡大していくことで、東京オリンピックが開催される2020年ごろには連結売上高を現在の約2倍の1,000億円規模にしたいと考えています。

■ 2015年3月期 上期トピックス



Q-5 最後に株主の皆様へのメッセージをお願いします。

2013年4月の(株)ウイン・インターナショナルとテスコ(株)の経営統合以降、2014年5月の東証第二部上場、そして9月には第一部への昇格と、当社グループは私自身も戸惑うほどのスピードで階段を駆け上ってまいりました。これほどの短期間に一部上場を果たすことができたのは、ひとえに株主の皆様のご支援によるものであり、役職員一同を代表して心より御礼申し上げます。

当社グループはこれからも、患者様に負担の少ない低侵襲医療の普及を通じて人々のクオリティ・オブ・ライフの向上に多大な貢献をしているという誇りと、医療の高度化と医療費の抑制を陰で支えるという使命感を持って業容拡大に邁進してまいります。株主の皆様に対しては、経営成績や財政状態などのバランスを勘案しながら配当性向30%以上を継続的に達成するこ

とでご厚情にお応えしてまいる所存です。

株主の皆様にはなにとぞ、当社グループの事業活動にご理解を賜り、引き続きご指導とご鞭撻を賜りますようお願いよりお願い申し上げます。



連結貸借対照表(要旨)

	前期末 2014年3月31日	当第2四半期末 2014年9月30日
資産の部		
流動資産	23,922	21,429
現金及び預金	8,563	6,328
受取手形及び売掛金	13,798	12,383
商品	1,124	1,943
その他	437	775
固定資産	3,011	3,291
有形固定資産	2,062	2,374
無形固定資産	308	285
投資その他の資産	641	630
資産合計	26,934	24,721
負債の部		
流動負債	15,326	12,817
支払手形及び買掛金	14,276	12,018
その他	1,050	799
固定負債	374	404
負債合計	15,701	13,222
純資産の部		
株主資本	11,152	11,399
資本金	550	550
資本剰余金	2,272	2,272
利益剰余金	8,867	9,114
自己株式	△537	△537
その他の包括利益累計額	80	99
純資産合計	11,233	11,498
負債純資産合計	26,934	24,721

連結キャッシュ・
フロー計算書(要旨)

	前第2四半期 2013年4月1日～ 2013年9月30日	当第2四半期 2014年4月1日～ 2014年9月30日
営業活動による キャッシュ・フロー	738	△1,288
投資活動による キャッシュ・フロー	△335	△486
財務活動による キャッシュ・フロー	△355	△459
現金及び 現金同等物の期首残高	4,611	8,563
株式移転による現金及び 現金同等物の増加額	2,269	—
現金及び現金同等物の 四半期末残高	6,928	6,328

連結財政状態

総資産 **24,721** 百万円

純資産 **11,498** 百万円

自己資本比率 **46.5%**

1株当たり純資産 **801.05** 円

支払手形及び買掛金が減少したこと等に伴い、現金及び預金が2,235百万円減少し、自己資本比率が46.5%に上昇しました。

Point

営業活動によるキャッシュ・フロー

税金等調整前四半期純利益が1,105百万円あった一方で、たな卸資産の増加が819百万円、仕入債務の減少が2,257百万円あったこと等により1,288百万円の支出となりました。

投資活動によるキャッシュ・フロー

有形固定資産の取得による支出が436百万円あったこと等により486百万円の支出となりました。

財務活動によるキャッシュ・フロー

前期の配当金を支払ったことにより459百万円の支出となりました。

現金及び現金同等物の四半期末残高

期首より2,235百万円減少し、6,328百万円となりました。

連結損益計算書(要旨)

(単位:百万円)

	前第2四半期 2013年4月1日～ 2013年9月30日	当第2四半期 2014年4月1日～ 2014年9月30日
売上高	22,230	23,590
売上原価	19,226	20,453
売上総利益	3,003	3,136
販売費及び一般管理費	1,952	2,043
営業利益	1,051	1,093
営業外収益	8	8
営業外費用	0	0
経常利益	1,059	1,101
特別利益	377	4
特別損失	0	0
税金等調整前四半期純利益	1,435	1,105
法人税等	414	399
少数株主損益調整前四半期純利益	1,021	706
四半期純利益	1,021	706

連結包括利益計算書(要旨)

(単位:百万円)

	前第2四半期 2013年4月1日～ 2013年9月30日	当第2四半期 2014年4月1日～ 2014年9月30日
少数株主損益調整前 四半期純利益	1,021	706
その他の包括利益	15	18
四半期包括利益	1,036	724

Point

四半期純利益

前年同期に経営統合に伴う負ののれん発生益196百万円及び段階取得に係る差益180百万円を計上したため、四半期純利益は706百万円と減益になりました。

Point

売上高・経常利益

主力商品の販売価格が下落したものの、既存顧客の深耕と新規顧客の獲得により、売上高、経常利益ともに増収増益となりました。

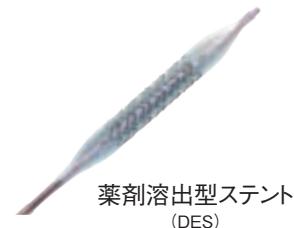
主要分類概況

● 虚血性心疾患関連 (PCI) ●

一部のPTCAバルーンカテーテルの一括買い取りにより利益率は改善しましたが、主力である薬剤溶出型ステント (DES) の販売数量の伸び悩みや、償還価格改定に伴う販売単価の下落等により減収となりました。

売上高前年同期比

▲0.3%



薬剤溶出型ステント (DES)

● 心臓律動管理関連 (CRS) ●

人員の増強を図り営業活動を強化しました。特にEPアブレーションに注力し、啓蒙活動を行ったことにより販売数量が伸長しました。また、MRI型ペースメーカーの販売強化も継続して実施しました。

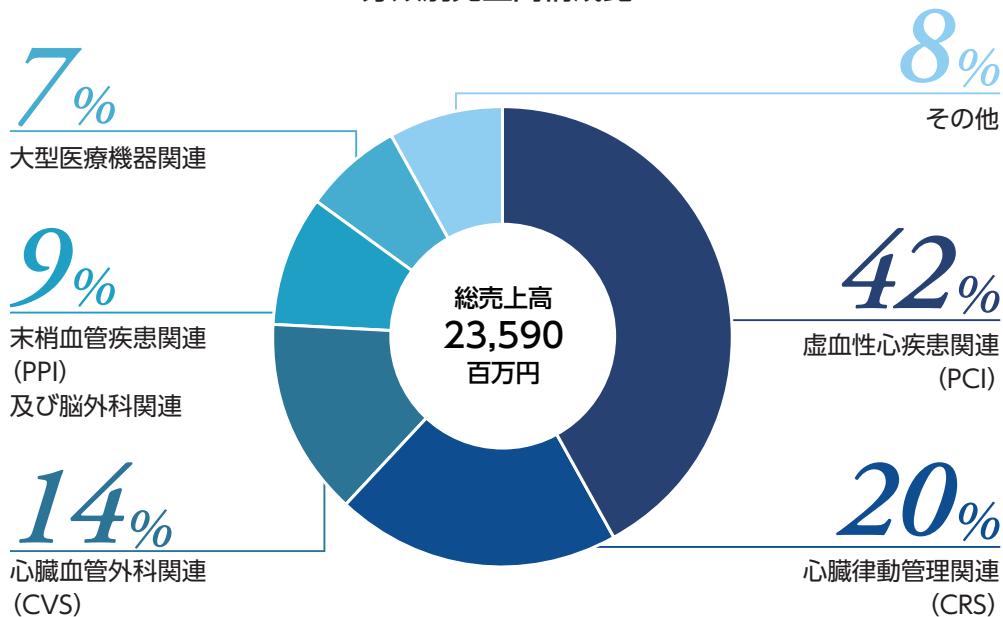
売上高前年同期比

+10.7%



EPアブレーション

分類別売上高構成比



● 心臓血管外科関連 (CVS) ●

ステントグラフト内挿術や、経カテーテル的大動脈弁留置術(TAVI)等の低侵襲治療分野を成長市場と位置付け、人員を投入し、新規顧客の獲得を図りました。



ステントグラフト

売上高前年同期比

+15.5%

● 大型医療機器関連 ●

医療施設の新築・増改築の情報を早期に収集し、地域の市場分析を行い、受入患者数の増加に寄与し得る設備投資の提案を行ったことにより売上高が増加しました。

アンギオ装置
(移動式X線撮影装置)

売上高前年同期比

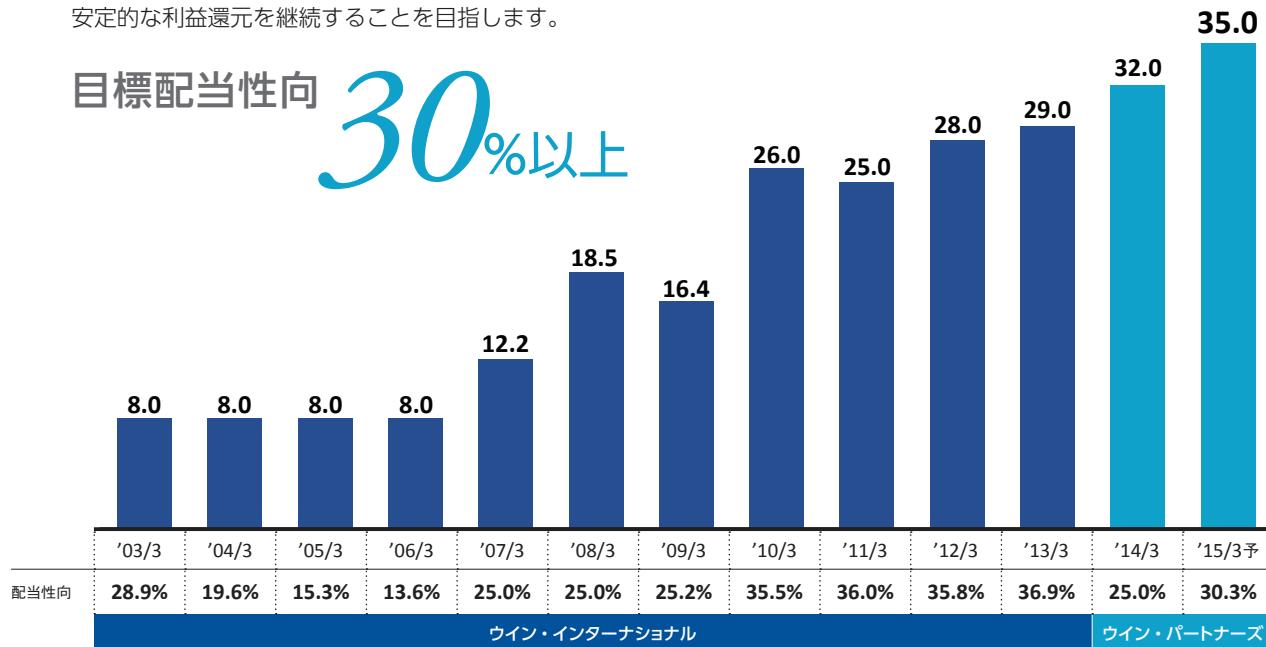
+23.6%

ウイン・インターナショナル及びウイン・パートナーズ配当実績 1株当たり配当金 (単位:円)

利益配分に関する基本方針

将来の事業展開と経営基盤の強化のために必要な内部留保を確保しつつ、安定的な利益還元を継続することを目指します。

目標配当性向 **30%以上**



IRカレンダー



会社概要

(2014年9月30日現在)

社名	ウイン・パートナーズ株式会社
英文社名	WIN-Partners Co., Ltd.
事業内容	医療機器販売等を行う会社の経営管理及びそれに付帯又は関連する事業等
本店所在地	東京都台東区台東四丁目24番8号
グループ会社	株式会社ウイン・インターナショナル テスコ株式会社
設立年月日	2013年4月1日
資本金	5億5千万円
従業員数	393名(連結)

役員

(2014年9月30日現在)

代表取締役社長	秋沢 英海
取締役	秋田 裕二
取締役	三田上 浩美
取締役	村田 裕可
社外取締役	間島 進吾
常勤監査役	中田 陽一
社外監査役	神田 安積
社外監査役	菊地 康夫

株式の状況

(2014年9月30日現在)

発行可能株式総数	50,000,000株
発行済株式の総数	15,251,655株
株主数	2,818名

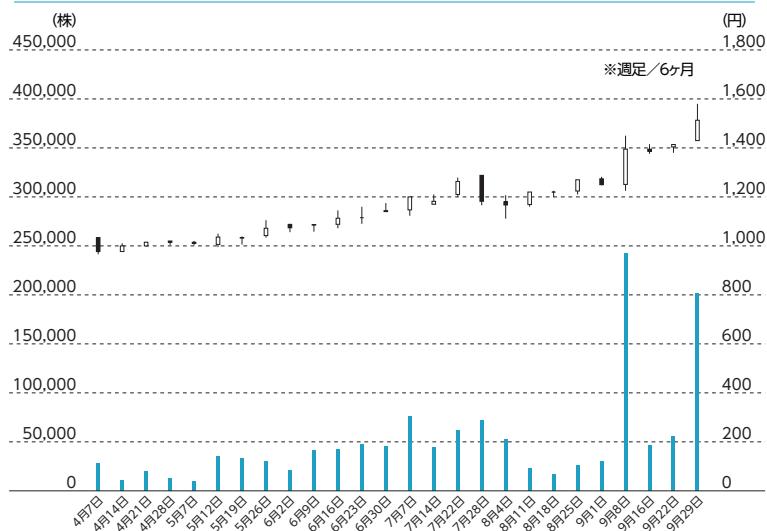
大株主

株主名	持株数 (株)	持株比率 (%)
有限会社オフィスA	3,300,000	23.0
ビービーエイチフォーフィデリティ ロープライズドストックファンド (プリンシパルオールセクターサブポートフォリオ)	1,475,700	10.3
秋田裕二	1,205,945	8.4
株式会社キエマ企画	945,500	6.6
グリーンホスピタルサプライ株式会社	800,000	5.6

(注) 持株比率は自己株式897,433株を控除して計算しております。

株価及び出来高の推移

(期間：2014年4月～9月)



株主メモ

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
基準日	期末配当金 3月31日
公告の方法	電子公告 http://www.win-partners.co.jp/koukoku/ やむを得ない事由により電子公告によることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。
株主名簿管理人 (特別口座の口座管理機関)	東京都千代田区丸の内1-4-5 三菱UFJ信託銀行株式会社
連絡先・送付先	〒137-8081 東京都江東区東砂7-10-11 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 0120-232-711 (フリーダイヤル)

※ 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則として口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。



WIN A BETTER QUALITY OF LIFE

WIN PARTNERS

ウイン・パートナーズ 株式会社

〒110-8558 東京都台東区台東4-24-8
TEL: 03-6895-1234

www.win-partners.co.jp



WINはQOL推進企業です